

高知大学 人文社会科学部

国際社会コース 4年

にいみ ゆきひろ

新見幸大さん(ゆきぴ)

出身：徳島県

フィリピン人の母と

日本人の父を持つ

趣味：居酒屋巡り

アルバイト：居酒屋、バー

留学経験：あり



高知大学での日常

Q・人文社会科学部についてどう思っていますか？

この学部では日本語教員も、教職のことも、地域に関することも、いろんなものが学べるから、授業での新しい発見が多くて楽しいです。けど、学べる質問の幅が広すぎて、人によって、自分のやりたいこと(専攻)が決めにくいかも。

あとは、それぞれのコースに癖の強い人がたくさんいると思う。その人たちと出会うことで、自分自身いろんな価値観に触れることができた。コースをまたいで授業が取れるから、友だちの輪が広がりやすいというところも、人文社会科学部のいいところかなと思います。

Q・サークル活動はされていますか？

よさこいサークルに入っていました。他学部でいろんな年代の人とも友達になれて、サークル入ってから助け合うことも遊びに行くことも増えた。二年目には幹部として地方車(音楽を流して踊り子を先導する車)の作成

とかをしてた。引き継ぎが不十分でわからんことが多かったけど、みんなで最後までやり遂げて完成した。そういう経験も通じて、サークルってただ単にその活動内容だけじゃなくて、人生を変えてくれるきっかけでもあるし、他で経験できんようなことを経験できるものやと思った。人との関わり方の大切さとか、人脈の広げ方も学べたから、サークルはめっちゃ良かったです。その幹部活動してた時が大学生活で一番楽しかった。



▲ 学生よさこいチーム粋恋の集合写真

ノルウエー留学

Q・留学した理由と期間を教えてください。

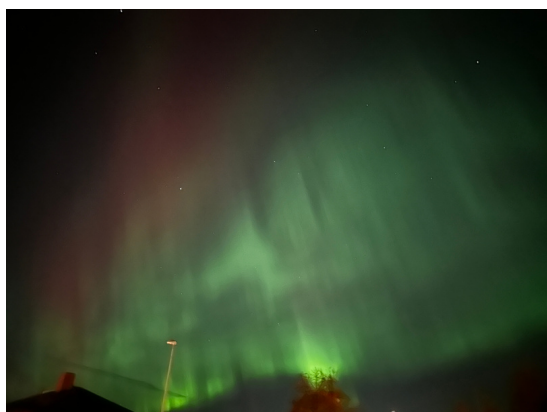
新しい発見をしたかったのと、日本におけるだけじゃ絶対感じられん異文化を直で体験したいっていう思いから、留学に行くことを決めてました。

ノルウエーに行こうと思った理由は、スウェーデンから高知大学に来ちよった留学生の子の話を聞いて、北欧の自然豊かな生活を体験したいと思ったからかな。

期間は、二〇二五年の八月から二〇二六年の一月まで。三回生の後期に高知大学の交換留学制度を使ってノルウエーに行きました。

Q・英語は留学に行くだけで流暢になりますか？

行くだけでは絶対ならんと思う。留学先の英語は日本で学んだ英語と発音も違うから聞き取りづらくて、最初はうまく返すこともできなかった。海外ではアジア人差別をする人もいて、話しかけても軽く流されることがあった。



▲ 留学先で見たオーロラ

それがほんまに悔しかったから、毎日外に出て誰かに話しかけることを徹底して。そこでわからん単語が出たら、「それなんて言うの？」って全部聞いてた。それからその日わからなかった単語をAIを活用して寝る前に復習するようにしてた。「今日のこれおもしろかったな」っていう単語は、次の日使うようにしてたから、留学期間の中で英語力が結構伸びたし、英語の考え方も身についたかなと思う。



▲ 留学先の友達

留学後と今

Q・留学後の変化を教えてください。

生活の中で意見を聞かれた時とかにパツと言えるようになったし、留学に行つてから、いかにいいことも全部理由つけてから言うようになったと思う。

Q・今は卒論に取り組まれていますか？

トランスジェンダーと言語を組み合わせた卒論を考えてる。言うたら、トランスジェンダーの人達って喋り方に癖があったり、自分の理想像に寄せて話すことがあるから、そういった要因と、一人称二人称三人称や女性名詞とか男性名詞などの言語とジェンダーの関係を卒論で考えてます。

将来の展望

Q・将来はどのような職業に就きたいと考えていますか？

今は地方創生系の地域の魅力をどんどん発信していく仕事を探している感じ。特に、海外に展開しようとしている企業をメインで今探してる。



▲ 他サークルの宿泊イベント

Q・地方創生系の仕事に就こうと思ったきっかけは何ですか？

きっかけは、徳島から高知に来た時に、地元の人におすすめの場所やモノを聞いたら「いやこっちはんまに何もなくて」って言われて。でも、実際に生活してみたらお酒も料理も美味し



▲ よさこいサークル粋恋 幹部の集合写真

いし、人も優しいし、都会にはない自然もあるから、魅力いっぱいあるやんと思った。それからノルウエーで、「日本のどこに行ってみたい？」って聞いた時に海外の人は「Tokyo, Osaka, Kyoto...」とか。

出てくるのは主要都市ばかりだったのが、悔しかった。あまり知られていない地方についても海外と日本両方発信していったらおもしろいんじゃないかなって今は考えています。

ゆきぴさんの金言

Q. 本学部を目指す高校生にアドバイスをお願いします！

一つ目は、やりたいと思うことは絶対にしてください。なんぼやりたいことにお金がかかるって言っても、お金は頑張れば全然集められるし、奨学金みたいな制度にも挑戦できるから、ほんまにやりたいことがあるんだったら、やろうとすべし。

自分自身、やりたいことをやるための準備をやったから、いつの間にかうまくいった。成し遂げられたってことがあった。やっぱりぐずぐずして、遅れて何もできなくなったりっていうのはよくない。準備した時間が無駄になることは絶対ないから。結局その準備をしている間に学べたこともいっぱいあるし。例えば、留学に向けてお金を貯める準備をすると、もし行けなかったとしてもそのお金は残る。だからほんまにやりたいと思っただけは絶対すぐに実行してほしい。



▲ ゆきぴさん成人式

二つ目は、ありのままの自分でいてください。なんか自分が綺麗事言いうのがむずがゆいけど（笑）。自分やから言えることやけども、ありのままに自分がいたい姿、やりたい格好、やりたい顔をして。ありのままの自分でいいから。それを認めてくれる人がたくさんいるのが大学やから。

もし大学のことで、自分の個性の面で不安に思っちゃうことがあったとしても、いざ行ってみたら楽しめるから大丈夫。不安なこともあるけど、そういった不安や課題も行ってみないと体験できんし。もう、即やりたいことは実行っていうのと、自分に正直にありのままに生きてください。

編集後記

『ジブンノジブンズ』記念すべきNo.1をお読みいただきありがとうございます。この記事を作成するにあたり、ゆきぴさんに一時間ほどインタビューをさせていただきました。インタビュールが始まる前からゆきぴさんワールド全開で場を明るくしてくれたので、私たち記者もチームパークに來た気分でした。楽しみながらお話を聞かせていただきました。

今回ゆきぴさんのお話を聞いて、高知大学人文社会科学部だからこそできる経験がたくさんあること、人生を変えるきっかけがあることを改めて感じました。私たち記者も今後の学生生活の中でより高知大学人文社会科学部を楽しみ尽くし、学生生活での学びを将来へ紡いでいきたいです。

人文社会科学部三年 浅井遼太

二年 植田碧

二年 大林青夏

二年 佐田真央